

市政ニュース

「将来を担う若者が豊岡の魅力を再認識」

市内中学校で「市長の特別授業」開始

6月17日から、市内の中学校で「市長の特別授業」が始まりました。

この授業は、中学生が豊岡の魅力を再認識し、市の将来に希望を見だし、豊岡で定住したいという意識を高めるために実施しています。

豊岡北中学校では、3年生が「コウノトリと共に生きる」豊岡の挑戦」と題した豊岡の魅力と施策についての話



▲豊岡北中学校の「市長の特別授業」の様子



▲市長に質問する中学生

を聞きました。

最後に生徒の「市長の仕事とは、どのようなものですか」の質問に、市長は「さまざまなことに対して、最後に決断し、結論を出すことが仕事。一番重い決断は、災害時に命に関わる判断をしなければならぬこと」、また「市長になつて考え方が変わったことはありますか」の質問には「豊岡がより好きになった。気持ちより強く持つようになった。言葉を磨き、この気持ちをいろいろな人に伝えている」と話しました。

この特別授業は、10月末まで、市内の全ての中学校で実施されます。

7月21日から森本診療所長に就任

豊岡が好きな赤丸悟志です。

38・6度！「今日の豊岡は日本一暑いらしいですよ」と看護師さんから言われたのが8年前の夏。そして冬は大雪。兵庫県で雪かき？豊岡にまた引越す？と人に話すと「暑くて寒いでしょう」と。それでも豊岡は暮らした中で一番好きな場所。病を得たら、つらく不安になります。その気持ちはその



▲森本診療所長 赤丸悟志

人にしか分からない。でも、そのつらさを和らげるための味方でありたいと思ってきました。スタッフや専門の先生の力を借りながら、ですが。

自ら考え、自ら行動する地域へ

地域「ミニコミュニティづくり」研修会開催

6月19日、住民自治による地域づくりを先進的に行っている広島県三次市と同市青河自治振興会の取組みを学ぶ「豊岡市新しい地域コミュニティづくり研修会」を開催し、約150人の市民が参加しました。

研修会では、三次市地域振興課の永井宏明さんが、市民と協働で行うまちづくりについて概要を説明したほか、青河自治振興会会長の岩崎積さんが、自主・自立の町を目

指す「暮らしのサポート事業」で、高齢者の買い物代行や無料送迎を行うなどの取組みを紹介しました。

本市では、平成29年度から、地区公民館の区域を単位とした「新しい地域コミュニティ」を二斉にスタートします。



▲三次市の永井さんによる取組み発表

主な市政の動き

6月

12日・全国町並みゼミ豊岡大会（14日）

14日・親善少年武道大会

17日・市長の中学校特別授業（豊岡北、25日・竹野、7月6日・出石、7日・但東、8日・城崎、港）

八条小学校プール竣工（19日・奈佐小）

中学生の「ふれあい育児体験」の実施（11月下旬）

19日・新しい地域コミュニティづくり研修会

但馬国分寺跡の一部が国史跡に追加指定

21日・第35回兵庫神鍋高原マラソン全国大会

24日・第1回豊岡市環境審議会（株）奥城崎シーサイドホテルと「災害時における避難所及び物資の提供に関する協定（項目追加）」締結

25日・豊岡UIターン就職フェア開催

26日・豊岡市プレミアム付商品券発売（3日、9日・追加発売）

1日・豊岡市感謝状贈呈式

3日・豊岡市第6次インドネシア漁業実習生修了証授与式

7日・豊岡市第6次インドネシア漁業実習生修了証授与式

7日・豊岡市第6次インドネシア漁業実習生修了証授与式

7日・豊岡市第6次インドネシア漁業実習生修了証授与式

7日・豊岡市第6次インドネシア漁業実習生修了証授与式

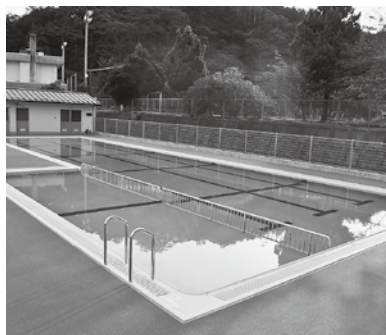
「待望の新しいプールで25m水泳頑張るぞ」

八条小学校と奈佐小学校でプール竣工式挙行

6月17日に八条小学校で、19日に奈佐小学校で、プールの竣工式を行いました。

昨夏まで使用していた両小学校のプールは、コンクリート製で老朽化していたため、昨年8月から改修工事を進めていました。

新しいプールは、FRP（繊維強化プラスチック）製で、長さ25mのメインプールとサブプールがあります。八条小学校のメインプールは6コー



▲奈佐小学校の新しいプール

ス、奈佐小学校のメインプールは3コースです。八条小学校では、竣工式の

終了後、待ちに待ったプール開きとなり児童の歓声が響き渡りました。



▲新しいプールで元気いっぱいを楽しむ子どもたち

「4256人のランナーが神鍋高原を駆け抜ける」

神鍋高原マラソン全国大会を開催

6月21日、県立但馬ドーム発着の神鍋高原周回コースで、第35回兵庫神鍋高原マラソン全国大会を開催しました。

4256人のランナーが、ファミリージョギング、ハーフマラソン、5km、10kmの種

目に出場。沿道の声援と高原の爽やかな風を感じながら、ゴールを目指しました。

ドームではスタッフがランナーや応援に訪れた方をおも

てなし。ニジマスの塩焼きや

但馬牛のバーベキュー、かき氷などが振る舞われるとともに、パンザイコーナーではス

タッフと選手らが一緒にパンザイ写真を撮影しました。

子どもと一緒に家族の応援に訪れた吉谷武裕さん（出石町森井）は「応援の後は家族でニジマス釣りなどを楽しみます」と神鍋高原での一日を満喫していました。



▲元気よくスタートを切るランナー

中貝市長の徒然日記 ⑨3

子育てよ幸なれ

4月、娘に娘ができました。昨春秋には、重いつわりで2カ月間豊岡に帰っていました。

た。冷蔵庫を開けても、コーヒーの匂いがしても気持ちが悪くなるほどで、ぼくはただオロオロするばかりでした。

里帰り出産でした。高校生の頃まで、寝入ったばかりの足の裏やお腹、背中にマジックで落書きを散々してくれたお

礼にと、出産前、ぐったりとしている娘の手や足のツボをせっせと押したり、肩をもんだりしておりました。

4月15日午前4時15分（ヨイコ、ヨイコ）、新装開店間もない豊岡病院の周産期センターで無事出産。

出勤すると、デイズニーのミッキー、ミニーの表敬訪問が待っていました。「実は、今朝、娘が出産しまして」「ええ！ デイズニーランドの誕生日と一緒にです！」とアンバサダーの今枝さん。東京デイズニーランドの開業日でした。良い子は楽しい子になる運

命なのでありました。と喜んだのも束の間。真夜中にもひっきりなしに元氣よく泣く娘の娘。飲んだと思ったら出し、着がえさせたと思ったらブリッと出す娘の娘。

世の女性たちの大変な思いとともに生まれてきた命。頭が下がるばかりです。その命が健やかなものでありますように、と心から願わずにはいられませんでした。

最近、娘から聞いた話です。産後からの夢だったハンバーガーを食べに、親子3人で出かけたときのこと。いざ食べようとしたその瞬間、大泣きが始まりました。がっくりする娘。その時、隣にいた70代の女性二人組が手を差し伸べて、食べ終わるまで抱っこしてくださったそうです。

そのお一人「昔、中華料理店で、私が食べる間お店の人が子どもを抱っこしてくれて助かった思い出があります。だから私も同じようにしたいと思って」
ブラボー！ その行動がどれほど人の心にしみ、子育ての応援になることか。